

横山光輝『三国志』について（講演趣旨）

1 連載 178 回、一度の休載もなく

横山光輝『三国志』は、月刊『希望の友』1972(昭和 47)年 1 月号から連載開始。

月刊『コミックトム』1987 年(昭和 62)年 3 月号で完結(全 178 回)。

前年 1971(昭和 46)年の『希望の友』12 月号で「水滸伝」が完結。次のページに新連載となる「三国志」の連載予告掲載。(図版①)

私は 1972 年 8 月から横山先生の編集担当に。

編集のスケジュールを正しく伝えて「サバ読み」はしなかった。そこに信頼関係が生まれた。

一度だけ、1973(昭和 48)年 11 月号で休載したが、それは編集部の都合であった。

□一度減ページがあった。休載をおすすめしたが。

□読者を失望させたくないとの作家的良心から。

2 出世魚のように増えていってついに 100 ページ連載

「希望の友」1972 年 1 月号の 32 ページ連載で始まった。1974 年 5 月号からは 40 ページ、1978 年 10 月号からは 50 ページ。新雑誌創刊で画期的な 100 ページ連載となった。

巨匠の 100 ページ連載は、そもそもどこから出てきたのか。

なかば断られるのを覚悟して依頼に行った。

早く続きを読みたいという読者の強い要望。

□50 ページのペースでは、完結まで何年かかるかわからない。

1980(昭和 55)年の月刊『コミックトム』創刊号(5月号)から 100 ページ連載が開始された。三回目で孔明が初登場。(図版②)

担当編集者の過酷な日々も始まった。月の三分の二は家に帰れない日々が一年半くらい続いた。

原稿をいただく苦労は、横山先生に関してはまったくなかった。

3 初めのうちは資料がなかった

連載開始の頃は資料らしい資料もなく、横山先生は苦労されていた。

その後、香港版の連環画『三国志』が手に入り、参考にされていた。

中国へ行かれて、持ち帰った資料にはいいものもあった。成都「武侯祠博物館」の副館長(譚良嘯先生)からの資料が役に立った。

資料集めの苦労について、横山先生はこう語っている。

(参考)

横山「たとえば弩などは、形がわかっても動かし方がわからない。こちら作を

描かなくてはなりませんから、結局、弩は描けない。そういう場合もあります。百科事典なんかには、三国時代に使われたが、その後は使われていないなんて書いてある。文献ではそこまでしかわかりませんからね。」

資料集めを通して編集者としてのあり方を学んだ。

4 吉川英治『三国志』を継承しているが、「原作」ではないわけ

中学時代に吉川英治氏の「三国志」を読んで感銘をうけた。

吉川『三国志』を原作と思っている人もいるが、漫画表現でもかなり違い。

人物造形はもっと違う。

5 「官渡の戦い」が省略されたわけ

雑誌が休刊して新雑誌の移行するときだった。

キャラクターを一気に年をとらせたかった。

とにかく完結させることが第一という考えだった。

早く諸葛亮孔明を出すためではなかった。

6 横山光輝「三国志」人気の秘密

人気の秘密の第1。精魂込めて描かれた。

横山光輝という漫画家が描いたから。

横山先生は、ロボット、SF、時代劇、少女ものなどどのジャンルでも大ヒットさせ、そのジャンルを大発展させている。

漫画界では中国ものはヒットしないというジンクスがあった。1967年連載開始の「水滸伝」でそれを破り、中国もののパイオニア。

漫画界が劇画の方向に流れていくなかで、流されないで漫画「三国志」を描いた。

人気の秘密の第2。作者の人柄が画面からにじみ出ている。

画風が魅力的。手塚治虫先生も「品が良い」と評したことがある。

生き生きとした豊かな表情と、ダイナミックな動きが加わり、絵としての完成度が高い。

登場人物の服装から背景まで、実に丁寧に描き込まれている。コピーを使用しない。

人気の秘密の第3。練り上げられた巧みなストーリー展開。

吉川「三国志」や「三国志演義」のもともとの面白さを活かしながら、読者を考慮して時に大胆な省略を行っている。人物も合体や氏名カット。

クライマックスに至る過程に重きを置く構成。

一回100ページ連載だったので、ストーリー作りには余裕と幅があり、人物描写には奥行きがある。

登場人物の見分け方にも腐心をされている。

人気の秘密の第4は人物造形の新しさ。

□登場人物を単純に善とか悪とか決めつけない。キャラクターを丁寧に描き込んでいる。

□劉備は人格者だが、迷い悩んだりする弱さももつ人間。

曹操は非情だけど、頭がよく決断力があり、部下を上手に動かす優れたリーダー。

□呂布を裏切り者としてだけでなく、純情な面も持つ豪傑。(図版④)

人気の秘密の第5は、どぎつい表現を避ける。

□最初から少年少女読者を意識していた。

□宦官や後宮を描かない。

□夏侯惇の目玉は矢を抜くところまで。

□董卓は呂布の手にかかって死ぬところまで。

□長坂坡で劉備は阿斗を部下に手渡す。

□小沛で呂布に追われた劉備は行く先々で農民から食糧を受ける。

もう一つの人気の秘密・完結後も書き換え

あらたな資料をもとに手直しを重ねられた。蜀の棧道や服装(図版③)など。

7 中国への同行

1985(昭和60)年10月、横山先生が中国四川省成都から広元間約400キロの孔明北伐のルートを訪ねた時の写真を紹介。

成都武侯祠→八陣図→落鳳坡→瓦口関→関帝廟→剣門関(図版A)→武侯橋→蜀の棧道

8 正統派に徹した横山光輝「三国志」

横山先生は、子供のころ吉川「三国志」を読んで感銘を受けていた。

横山先生が漫画化に取り組んだ時、日本には吉川「三国志」と「三国志演義」しかなかった。

「横山三国志」は、中国の「三国志演義」から江戸時代の「通俗三国志」、吉川英治の「三国志」と続く正統派の「三国志」の流れをくんでいる。

□随所に横山先生ならではのオリジナリティをちりばめてはいるが、あくまでも正統派の路線。手塚先生からの助言もあったが。

□これまで大勢の漫画家が新解釈の「三国志」を描いたが、残っているのはわずかである。中身が薄いと成長した読者からあきられてしまう。

□吉川『三国志』を踏襲したところもあるが、吉川原作ではない。

9 横山『三国志』の現在とこれから

雑誌連載 月刊「希望の友」72年1月号～月刊「コミックトム」87年3月号。連載回数178回。ページ数にして約12000ページ。

単行本

1974年5月刊行開始 新書判全60巻。
1980年6月刊行開始。B5判「三国志」(通称デカ判)全42巻
1997年11月刊行開始。文庫版30巻
2003年4月刊行開始。カジュアルワイド版全25巻(コンビニ向け)
2005年10月配信開始。電子版全60巻
2007年7月刊行開始。愛蔵版全30巻
2014年6月 三国志英傑伝シリーズ「諸葛孔明」全3巻
2014年9月 三国志英傑伝シリーズ「曹操孟徳」全3巻
2014年12月 三国志英傑伝シリーズ「劉備玄德」全3巻
2017年1月 大判三国志全21巻
2019年6月 カジュアルワイド新装版全25巻刊行中
2019年11月 **バイリンガル版**「三国志」全5巻 刊行中(図版⑤)

海外出版

1990年 韓国版60巻
1994年台湾・香港60巻
1995年**タイ語**版60巻
2001年韓国オールカラー版60巻
2009年韓国愛蔵版全60巻
2010年台湾版「赤壁」全2巻
2020年8月 **台湾(繁体字)愛蔵版**「三国志」全30巻刊行開始・完結後大判「三国志」
全30巻刊行予定
2020年秋 中国本土(簡体字版)愛蔵版「三国志」全30巻刊行開始

アニメ化

1985年と1986年に日本テレビ系で2回放送
1991年10月~1992年9月、テレビ東京系で30分ものとして放送。

関連グッズ多数

10 横山『三国志』のこれから

- ①次々に新しいバージョンを出して読者の要望に応える
- ②そのつど細部までチェックし、時代考証などを徹底
- ③解説本、クイズ本、学術的研究書など多角的な展開
- ④他のメディアとの連携と販売活動の推進
- ⑤常に新しい出版形態を見すえて(コンビニ本、インターネット配信)

横山「三国志」は、漫画の世界における「古典」といってもいいくらいだが、中身はまった